

作成 令和3年11月15日

摂津市議会議員 松本暁彦

令和3年第3回定例会一般質問 ～本会議2日目 令和3年10月29日～  
議事録（抜粋）

#### 4 地域共育での孤立家庭防止について

##### 質疑概要

孤立家庭が虐待につながるため、それを防ぐ地域共育をこれまで提言してきたが、本年9月に児童虐待死事件が起きることとなった。この事件に対して摂津市の対応の甘さ等が指摘されている。なぜ防ぐことができなかったのか、市の組織体制は十分であったのかなど、議会で多々議論された。

そのことを踏まえて、議会において児童虐待防止に向けた提言を行った。

##### ○松本議員

次に、地域共育での孤立家庭防止についてですが、私は児童虐待防止の観点で、以前からも児童虐待につながる孤立家庭を防止するために地域で共に育てる、地域共育について提言して参りました。

おりとちゃんのご冥福をお祈りするとともに、また非常に残念な思いであります。

なお多くの議論が交わされた為、地域共育の観点も踏まえながら児童虐待防止について意見・要望を述べさせていただきます。

10月27日夜のNHKニュースで、おりとちゃんの母親逮捕が報じられていましたが、そこに出演していた教授は、市は母親と会えていることからくる過剰な安心感があったのではないかという指摘をしていました。

その指摘を踏まえれば、平成30年の市内転入から家庭訪問38回を含む91回も  
の面談を行い、信頼関係構築を図るなど、しっかりと見ているぞ、孤立させないよというアプローチを行い虐待防止につながっていると考え、まさかそのような状況で卑劣な虐待・殺人が行われることは予想しづらかったのではないのでしょうか。

その為、情報提供者の必死の訴えよりも、これまでの信頼関係を壊さぬよう母親の言葉を優先することとなったのではないのでしょうか。

もしこれが子どもと一度も会えない、母親から面談を拒否されるという場合であれば、状況は変わっていたのでしょうか。

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]

本事案を踏まえ、市は自ら隠蔽を図る、自ら孤立化を図る家庭への対応力が不十分であったと同時に、過剰な安心感と表現されたように甘さ、児童虐待への危機意識が市内全体で低かったのではと考えます。

情報提供者の各課の対応、事件発生後の多くの市内外からの批判があった報道対応の不十分な姿勢でも見て取れます。

児童虐待は犯罪であり、子どもは虐待を受ければ死に至らないまでも脳にダメージを受け、その後の一生を左右します。子ども達の為に危機意識を高め市内全体で取り組まなければなりません。

担当職員の増員、スペシャリストの配置は当然のこと、常に最悪を想定し行動すること、注意案件は必要により部局横断対策チームを作り、多角的に情報収集を行い、かつ情報提供者の情報を有効に活用して、事実関係を正確に把握し、速やかに児相へ上げる体制を整えること、そして、市一丸で地域共育のネットワークの核となるよう取り組み、

本市において、このような悲惨な事件が二度と起こることのないよう、検証・再発防止策を徹底することを強く要望致します。

(音声データ等より作成)

重要と思われる部分には強調を入れています。

※当該質問に関係のない他の質問項目の部分は省略しています。

#### <質問項目一覧>

- 1 防災政策について
- 2 学力向上等への教育政策について
- 3 コロナ対策での経済活性化について
- 4 地域共育での孤立家庭防止について**

[想いを言葉に、言葉を形に、形から実践へ。]